MAIL Order List 2026-#1 （2026 年 3 月 14 日作成）

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com
email: tambour@ya2.so-net.ne.jp

（List 2026-#1 紙版使用表紙ジャケット）
MAGPIE ARC:Gil Brenton(England)

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
Ａ￥１９８０(税込み¥2178)　Ｂ￥２１８０(税込み¥2398)
Ｃ￥２３５０(税込み¥2585)　Ｄ￥２５８０(税込み¥2838)　Ｅ￥２８８０(税込み¥3168)
Ｘ￥４８０(税込み¥528)　Ｙ￥９８０(税込み¥1078)　Ｚ￥１４８０(税込み¥1628)
※発売年が 10 年以上前の商品は検品してお届けします。

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律１８５円》郵送
ただしＬＰを含む場合は一律６６０円。
※代金引換送料（郵送）：590 円何枚でも）
ＬＰを含む場合は＋２５０円。
注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

【ご注文はできるだけ 3/28 までにお願いします】
にてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●お問合せはメールにてお願いします。

鹿が嫌うアセビの花が今満開。

（早３月の今年初の通販リスト{ミニ版}）
*販売したいと思う新譜がなく、通販リストを作れずにいました。2 月になってようやく販売したい新譜が９枚ほどに。紙版は新譜情報のみをハガキでお知らせしようかとも思いましたが、あまりに味気ないので通販リスト･ミニ版を作って封書で郵送することにしました。
*米国 SSW（シンガー＆ソングライター）系はイタリアの New Shot Records の新譜５枚がどれも素晴らしく、俄然仕事の意欲をかきたられました。ＣＤ産業不況の中、タムボリン向きのＣＤをリリースしてくれる New Shot は有り難い存在。
*トラッド系は「これぞ！」と思ったものを直接交渉で仕入れました。

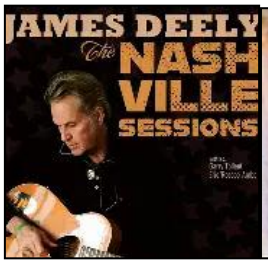
（分割払い）
*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は 4 月 30 日まででＯＫです。

USA, Canada, UK & Ireland, England, Scotland, Ireland,

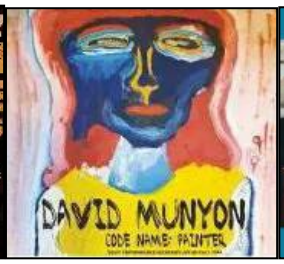
Europe 他, 堀田はりいの新刊, あとがき,

（ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です）

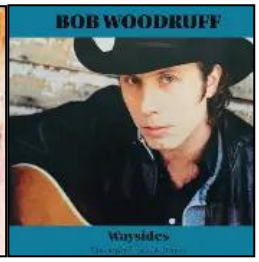
[CD/USA{Folk、Rock}系]



(James Deely)



(David Munyon)



(Bob Woodruff)

*JAMES DEELY:The Nashville Sessions　　D
(James Deely なる SSW のソロ･アルバムだが、中身は今どき滅茶苦茶最高なやや南部寄りのカントリーロック。女性バッキング･ヴォーカルが入る曲などはスワンプっぽくもある。James Deely の 70 年代シンガー風のヒューマンなシンガーとしての魅力も魅力だが、70 年代のカントリーロックやスワンプ風な土臭く心あるアメリカン･ロックはもの凄い魅力。James の朗々たるヴォーカルを中心にエレキ･ギター、ドブロ、スティール･ギター、オルガン、ピアノ、ベース、ドラムス、フィドル、女性バッキング･ヴォーカルによるロックはアメリカン･ロックとして完全無欠。w.Garry Tallent{Bruce Springsteen},Eric"Roscoe"Ambel{Steve Earle},Jeff Kazee{Southside Johnny},Fred Newell{George Strait} and many more!2025 作。New Shot)
*DAVID MUNYON:Code Name:Painter　　D
(David Munyon の最初期、1994 年イタリアでのギター弾き語りライヴ。一聴 John Prine タイプだが、彼の唄は John Prine とは一線を画し、感性豊かかつ滋味豊かで、ヴォーカルには静けさのなか

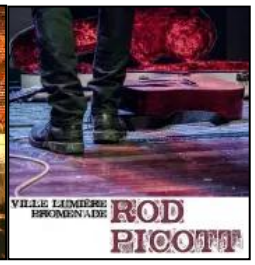
に悲喜こもごもな深い味わいがある。加えてギターの演奏は個々に冴え、かつ自身の唄に様々な彩りを添えていて、"Songs with Guitar"スタイルのアルバムとして秀逸。しかも音質と音響がとても良く、アコギの響きと彼独特なヴォーカルがライヴ会場の空間に響き渡るかのように聞こえる。まるで本人が目の前でうたっているかのよう。唯一無二、原石の輝きのある素晴らしいライヴ・アルバムだ。未入手のデビュー・アルバム"Code Name:Jumper"{1990年}から6曲を含む全11曲。1994年/2026年。New Shot)

*DAVID MUNYON:Acrylic Teepees　B

(発掘ＣＤ。David Munyonのバンド編成～Al Perkins,Dave Pomeroy,Craig Krampf～による1996年作。D.Munyon独特な孤独感漂う陰りのある唄と控えめなカントリー・ロック・サウンドが絶妙。Glitterhouse)

*BOB WOODRUFF:Waysides　D

(ロッキン・カントリー・シンガーのBob Woodruffの"Unreleased Tracks & Demos"集。実はこのシンガーには馴染みがなく、聴くのはおそらく初めて。聴くなり、おおお！シャープでエネルギッシュなロッキン・カントリー・サウンド＆ハーモニー・ヴォーカルを背に声を振り絞るBobのヴォーカルの何とポジティブでパワフルなこと。唄も音楽も滅茶苦茶かっこいい。カウボーイ・ハットを被ったジャケ写に「カントリー風」を恐れたが、中身はロックの精神とロック志向サウンドに充ちていて恐れは即霧散。寄せ集めなのにアルバムとして統一感があるのは、彼の音楽性の揺るぎなさ故だろう。Lucinda Williamsとデュエットする"There's Something There"など聴き物だらけ。w.Garry Tallent,Ray Kennedy,James Bruton,Randy Lee Hinderling,Darryl Swann,Paul Deakin他。全12曲。2026作。New Shot)



(Mike Delevante)　(Rod Picott)

*MIKE DELEVANTE:September Days　D

(The DelevantesのBobとMike兄弟のMikeの最新作。リッケンバッカー12弦の輝くサウンドをフィーチャーしたByrds風フォーク・ロックと、高齢のはずなのに青春まっただ中の明るさと陰りと甘ずっぱさのあるMikeのヴォーカル。Roger McGuinn、ByrdsそしてEvery Brothersファンはノックアウト間違いなしの胸キュンのフォーク・ロック。それらのファンそして西海岸ロック・ファンにとって最高の若返り剤！すべての楽器の音が輝いて聞こえる。これはあまり美味しすぎる。何より聴いてもらうのが一番。w.Garry Tallent,Joe Pisapia,Bryan Owings,Jamie Dick,Will Honaker,Dan Knowbler,Bob Delevante。2026作。New Shot)

*ROD PICOTT:Ville Lumiere Promenade　D

(Rod Picottは、調べて見ると、本作を除き2001年から自身のレーベルから16枚ものアルバムをリリースしている今も現役のSSW。

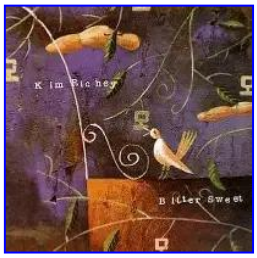
本作は2005年、Rodがドブロ＆ラップ･スティールの名手Matt Mauchをお伴にしてのフランスはパリでのライヴで21曲収録。感情を押し殺し、ボソボソとうたう彼の唄、その不思議な物語の世界にジワリジワリと引き込まれる。相方のMatt Mauchのドブロ＆ラップ･スティールの渋くもあり泥臭くもある多彩な伴奏とハーモニー･ヴォーカルが滅茶苦茶素晴らしく、二人のコラボはタイプは違うがJackson Browne with David Lindleyくらい阿吽の息。知らないところに、凄いSSWがいたもんだ。「あまりにも知られていないシンガー＆ソングライターの至宝の一人」との"No Depression"は評。納得。2025作。New Shot)

*JACK HARDY:Southern Comfort　D

(Jack Hardy{1947-2011}が1988年にイタリア南部のコゼンツァで行ったライヴ。アルバム･タイトルの"Southern Comfort"は、Jackがその地を「楽園の一角」と呼んだことによるもの。本作はJack Hardy{ギター、マンドリン、ハーモニカ}、Todd Scheaffer{ギター、バッキング･ヴォーカル}、Brady Rymer{ベース、バッキング･ヴォーカル}のトリオ編成によるもの。Jack Hardyのフォーク･シンガーとしての気迫は凄みを感じるほど。その上にToddとBymerの二人のバッキング･ヴォーカルと伴奏はJackのしゃがれ声で孤高感ある唄と一体化していて、Jack節の味わいを自然体で深めている。全16曲{中未発表曲が9曲)、トリオによるJack節をじっくりとお味わい下さい。「40年に及ぶツアーの中でも屈指の傑作。まさに彼のエネルギー、信念、そして超越的な芸術的表現の結晶」{New Shotのサイトより}。全く同感。1988年/2025作。New Shot)

*JACK HARDY:Live On Stage In Italy　C

(1993年にJack Hardyがイタリア公演を行ったときのライヴ。ライヴはバンド編成でメムバーはDavid Hamburger{ドブロ}, Jeff Hardy{ベース、ヴォーカル},Wendy Beckerman{バッキング･ヴォーカル}。自身のギターに加えDavidのドブロの伴奏とWendyのバッキング･ヴォーカル等による音楽は滋味豊かで彼の個性的な唄と一体化していて心和む。全17曲中８曲が未発表曲。1993年/2023作。New Shot)



(Kim Richey)

*KIM RICHEY:Bitter Sweet　A

(発掘ＣＤ。発売から19年の時を経ても尚、メチャかっこいいカントリー･ロックとKim嬢の旨みのあるヴォーカル。彼女のヴォーカルはLinda Ronshtadt風だが、Kimの方が歌唱力は上。音作りはバッキング･ヴォーカルを含め重厚で、カントリー･ロックとしてワンランク上。すべての音がデリシャス！ゲスト:Sam Bush。1997作。Mercury)

*RANDY BURNES:The Simple Things　A

(発掘ＣＤ。"Evening Of The Magician"{1968年作}や"Song For

An Uncertain Lady"{1971年作}等のSSWアルバムの名盤をリリースしたRandy Burnsの2008年作。タイトルから抱くイメージは忘れた方が良い。齢を重ねてもなお、彼の1970年代など過去の思い出に浸るタイプの{本人の言葉を借りれば、生き生きする}唄の数々{"Song For An Uncertain Lady"収録の"Autumn On Your Mind"の再演もある}は悩み多き青年時代と同じように神経質そうで情感豊か。声も昔のように小刻みにヴィブラートがかかって面影が有るし、不思議な気分に襲われる。どの唄もRandy Burnsらしさに充ちている。全12曲。CD-R。自主制作)

*GARY P.NUNN:It's A Texas Thing　　Z

(発掘ＣＤ。Jerry Jeff Walkerの"Lost Gonzo Band"出身のテキサスのシンガーのGary P.Nunnの2000年作。オリジナルなテキサス･ミュージックの創作を旗印に制作された本作。テックスメックス、カントリー、カントリー･ロック、ホンキートンク、スウィッグ･ジャズ等の音楽をごった煮した音楽は紛れもなくテキサス･ミュージックで、その味わいは濃厚。そして音楽は陽気で朗らか。西海岸カントリー･ロック風なコーラスも最高。主役のGaryのヴォーカルが有頂天というかノリノリというかこれまたメチャ最高。Maines BrothersのLloyd Mainesのプロデュースの手腕もお見事！終始テキサス臭濃厚で極楽気分。昔は良いのが当たり前に多かった。2000作。Campfire)

*DAVID OLNEY:Omar's Blues　　Z

(発掘ＣＤ。Emmylou Harris,Steve Earle,Linda Ronstadt,Steve Young等のシンガーにカバー{共作含む}されたSSWの中のSSWのDavid Olneyの2000年作。交友のあったTownes Van Zandtは彼のことを「モーツァルト、ライトニン･ホプキンス、ボブ･ディランと並んで、私が今まで聴いたいた中で最高のソングライターの一人」と評価。Mike Henderson{ｴﾚｷｷﾞﾀｰ}、Kieran Kane{ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ}、Glenn Worf{ﾍﾞｰｽ}、Harry Stinton{ﾄﾞﾗﾑｽ}、Claudia Scott{ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ･ﾎﾞｰｶﾙ}他によるバンド･サウンドと彼の唄は幅広い音楽性を内包した渋くも大らかなルーツロック。。Dead Rekoning)

*CALVIN RUSSELL:Equal Love　　C

(テキサス･オースティン出身のSSWのCalvin Russell{1948-2011}の1997年イタリアでのライヴ。本作はバンド編成～Spencer Jarmon{ｷﾞﾀｰ､ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ･ﾎﾞｰｶﾙ},Jim Panek{ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ},Scott Garber{ﾍﾞｰｽ､ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ･ﾎﾞｰｶﾙ},Jim Starboard{ﾄﾞﾗﾑｽ}～で、彼の持ち味である渋みのあるだみ声はバンドの南部寄りのルーツロックと一体化して、凄みがあって圧巻。T.V.Zandt作の二曲を含む全16曲。1997年/2025作。New Shot)

*LARRY JON WILSON:Larry Jon Wilson　　C

(今年になって知ったLarry Jon Wilsonが2009年作。メキシコ湾を望むコンドミニアムの15階の部屋で、Larry Jonのギター弾き語りのみで20曲収録したという。これが滅茶苦茶素晴らしい。曲目は自作曲6曲にBob Dylan,Paul Siebel,Willie Nelson,Mickey Newbury{2曲},Dave Loggins{2曲}のナムバー等。ギターを爪弾き、低音のズンと来る声でうたう彼の唄は、リラックスしていて、枯淡の深い味わいがある。2009作。Drag City)

*TONY JOE WHITE:The Complete Warner Bros. Recordings　　¥3980(税込み¥4268)

(二枚組。"Tony Joe White"{1971年}と"The Train I'm On"{1972

年}と"Homemade Ice Cream{1973年}の三枚＋シングル曲６曲の全40曲。2015作。Real Gone Music)

*TOM OVANS:When The Dice Began To Roll　　C

(ボストンの労働者階級の地区出身で、2000年前後に素晴らしいBob DylanスタイルのSSWアルバムを発表していたTom Ovansの1993年イタリアでのライヴ。伴奏者はDoug Lancio{ギター},Bob Kommersmith{ベース},Lou Ann Bardash{ヴォーカル。Bob Dylan風のだみ声とアコギ、スライド･ギター、ハーモニカの伴奏とLou Ann Bardashのソウルフルなハーモニー･ヴォーカルは、初期Bob Dylan風のプリミティヴというかフォーク･ブルース色の濃いフォークだが、その味わいはDylanより濃密。ルーツ志向であり、かつ稀有な個性派SSWだ。全21曲。2025作。New Shot}

*JAMES TALLEY:Live From The Vaults　　C

(オクラホマのタルサ出身のSSW、James Talleyの2002年イタリアでのライヴ。伴奏者はDavePomeroy{ベース},Mike Noble{エレキギター},Gregg Thomas{ドラムス}。Woody Guthrie作６曲とJ. Talleyの自作曲５曲の全11曲。バンド編成だが、バンドは補助的伴奏で全編ギター弾き語りの味わい。Woody Guthrie/Bob Dylan直系のプリミティヴなフォークやブルースに根付いた彼特有の滋味豊かでいぶし銀の唄は本ライヴで最高潮。2025作。New Shot)

*JEFF BLACK:Bless My Soul / Live in Italy　　C

(1996年イタリアでのギター弾き語りライヴ。ナッシュビルを拠点に活動するSSWのJeff Blackのアルバムを聴くのはおそらく彼の３枚目の"Tin Lily"{2005年作}以来。ギターの弾き語りでうたう誠実な彼の唄を聴くと「昔は良いSSWがいたなぁ」とつくづく思ってしまう。彼の唄の真っ直ぐさと清々しさに心洗われる。「Jeff Blackはレナード･コーエンのバリトン瞑想とタウンズ･ヴァン･ザントのルーツ方言を持つ吟遊詩人」{レコード会社の宣伝文より}。全19曲。2025作。New Shot}

*LIV GREENE:Deep Feeler　　C

(「このアルバムは完全に自伝的です」と言うライヴ録音の本作。若き女性SSWのLiv GreeneはEmmylou HarrisやKate WolfやGillian Welch等の米国の女性SSWの伝統を受け継ぎ、見事に米国フォーク･スタイルの美しいSSWアルバムを創作。唄それぞれに心が宿っていて、彼女の情感が裏返るヴォーカルで自然に生み出されている。全てが美味。2024作。Free Dirt)

*JASON ISBELL AND THE 400 UNIT
　:Live From The Ryman.Vol.2　　2890(税込み¥3179)

(二枚組。アラバマ出身のSSWのJason Isbellと彼のバンドによるライヴ･アルバム。滅茶苦茶かっこいい西海岸ロック･スタイルのルーツ･ロック。2024作。Thirty Tigers)

*VIV & RILEY:Imaginary People　　C

(Viv & Rileyはマルチ楽器奏者でSSWのVivian Levaと同じくマルチ楽器奏者でシンガーのRiley Calcagnoの二人とも２０代半ば。二人は古いバラッドや伝統的な物語をリメイク等して、米国トラッド＆フォークを超えた独自の新感覚の音楽を活き活きと創作。2023作。Free Dirt)

*SAMMY WALKER:Days I Left Behind　　C

(1986年、Sammy Walkerのイタリアでのギター弾き語りライヴ。全19曲。化粧なし、スッピンのSammy Walkerソング。ギターをお伴

にし、Sammy Walker 調でうたう彼の唄は優しく耳に心地よい。
1986 年/2024 作。New Shot)
*GUTHRIE THOMAS:Live On Stage　　C
(1993 年、Guthrie Thomas のイタリアでの弾き語りのライヴ。全
11 曲。彼の誠実な唄が静寂の中、生き生きと収録されていて、ギ
ター弾き語りフォーク・シンガー/SSW としての彼本来の魅力が
100%＋α味わえるライヴ・アルバム。1993 年/2023 作。New Shot)

[LP/USA{Singer & Songwriter]
*KASSI VALAZZA:From Newman Street¥4780(税込み¥5258)
(注目の女性 SSW、Kassi Valazza の待望の三枚目。No Depression
誌は本作について「上品で控えめなフォーク調で、主に Joni
Mitchell を想起させる」と表現。1970 年代の陰影のある良質の女
性 SSW アルバムを聴く感触。名盤誕生。2025 作。Fluff And Gravy)
*MICHAEL HURLEY:Sweetkorn　　¥3580(税込み¥3938)
(2025 年 3 月 31 日にコンサートからの帰宅時に倒れ、翌日 4 月 1 日に
急逝した Michael Hurley のラスト・アルバム。本作は 2002 年に CD
でリリースされた"Sweetkorn"からの７曲をリメイクし、新曲１
曲を加えて LP 化したもの。Michael Hurley のヴォーカルと彼が爪
弾くギターやバンジョーの音色は彼の悠々自適な個性が正に悠
々と表出されていて、これぞ Michael Hurley!といった趣き。ジャ
ケットもディスクも文字が手書きなのも気分ホッコリ。2023 作。
Mississippi)
*GUY CLARK:Dublin Blues-30th Anniversary Edition
¥4780(税込み¥5258)
(1995 年発売"Dublin Blues"の 30 周年記念盤。未発表曲"Once
More With Caution"{Emmylou Harris と Verlon Thompson がハー
モニー・ヴォーカル}のボーナス・トラック付。1995 年/2025 作。
Compass)

[CD/CANADA]
*DAVID WILCOX:Rhythm Of Love　　A
(発掘ＣＤ。イアンとシルヴィアの Great Speckled Bird のメンバ
ーでＳＳＷ＆ギタリストの David Wilcox の 2000 年作。プロデュ
ースは Colin Linden。Colin Linden はかつて David Wilcox のバ
ンド・メンバー。エレキ＆スライドギターをかき鳴らしうたう
David Wilcox のヴォーカルは一枚上手の味わいと勢いがあり、
巧みに創作された音楽は諧謔的というか、南部ロック志向なの
だが、多才で多彩なロック。スライドギター名手の Colin Linden
はアコギとマンドリンとバッキング・ヴォーカルで隠し味でバ
ックアップ。Richard Bell も本作収録メムバー。2013 年に James
Burton,Albert Lee,Amos Garrett 等と共に出演したコンサート
のライヴが"Guitar Heroes"というタイトルでリリースされて
いるのをネットで知った。Stony Plain)

[CD/CANADA{Trad}]
*MATTHEW BYRNE:Horison Lines　　D
("Stealing Time"が大好評のニューファンドランドのトラッド・
シンガーの Matthew Byrne の 2017 年作。イングランド屈指の演奏
家との共演で英国で収録された"Stealing Time"も素晴らしか

ったが、それより８年も前に制作された本作も音楽はイングランドの質の良いトラッド風で、同様に素晴らしく、Matthew のぬくもりのあるシンギングと相まって、心に響くフォーク＆トラッド･アルバムとして結実している。Matthew 自身が爪弾くギターも英国トラッド調でキラリ光っている。サイン入り。2017 作。Matthew Burn)

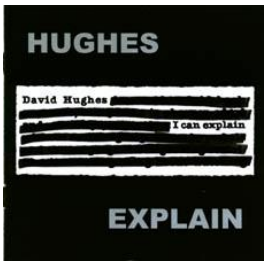
[CD+DVD/BRITAIN(SSW 系)]

※DVD は国内プレイヤーで再生可能。

*JOHN MARTYN:Live At Rockpalast 1978　　E

(1978 年のドイツの音楽番組"Rockpalast"での John Martyn の白熱のギター弾き語りライヴ。シンガーとしてもギター奏者としても最も脂がのっていた時代のライヴで徹頭徹尾エネルギッシュ。1989 年録音のボーナス･トラック"Look At That Girl"を含む全 12 曲。DVD は 1 時間 13 分。耳と目でお楽しみ下さい。1978 年/1989 年/2024 作。MIG)

[CD/BRITAIN&IRELAND(SSW 系)]



(David Hughes)

*DAVID HUGHES:I Can Explain　　A

(発掘ＣＤ。フォーク･シンガー＆ギタリストの David Hughes 名義のアルバムだが、David Hughes を中心に結成された Staggerring Hughesettes{David Hughes,Jacqui McShee,Helen Watson, Julie Matthews,Chris While,Gerry Conway,Martin Brunsden}のアルバムでもある。60 年代～70 年代のブリティッシュ･フォークの香り漂う稀少作。D.Hughes のヴォーカルを含め陰影に富み、かつ音楽性が豊か。ブックレットで 2003 年に Cropredy Fes にグループで出演したときの写真が拝める。ゲスト:Bert Jansch。2004 作。The Folk Corporation)

*LEE COLLINSON:Breathless　　A

(発掘ＣＤ。ロックバンドのギタリストからブリティッシュ･フォークのギタリストに転向し、BBC Radio の"Young Tradition"賞に二度ノミネート。Keith Hancock Band に Martin Carthy の後釜で加入したという経歴のギタリスト＆シンガー、Lee Collinson の 2001 年の三枚目。60 年代 Bert&John＋独自スタイルのフォーク･ギターを響きよくかき鳴らし、正統派ブリティッシュ･フォーク･シンガーらしい味わいのあるヴォーカルでトラッドや Tom Waits 等の SSW の唄をうたう一方、全 10 曲中三曲で米国南部音楽風なロック寄りの音楽を創作。Chama)

*NIALL McCABE:Stranger　　D

(メイヨー沖のクレア島出身の SSW の Niall McCabe。本作は彼の二作目。アイルランド出身の SSW としては近年ではピカー。Paul Brady や Van Morrison のヴォーカルのニュアンスを保持した彼

のヴォーカルはすこぶる魅力的な上に、島の生活を反映した唄の数々は、島の空気感とともに感情移入が豊かで、深く心に響く。加えてプロデューサーの Sean Óg Graham の、Niall のギター弾き語りにペダルスティールを織り交ぜながらフィドル、アコ、パイプ等と調和を図った音作りとトラッド、フォーク、ロック混在の音作りは見事で、Niall のシンガー＆ソングライターとしての類い稀な才能を見事な手腕で際立たせている。2025 年フォーク/SSW 系アルバムのベスト級。2025 作。Niall McCabe)

*CHRISTINA ALDEN & ALEX PATTERSON:Safe Travels　D

(Christina{ｳﾞｫｰｶﾙ、ｷﾞﾀｰ、ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ、ﾃﾅｰｷﾞﾀｰ} & Alex{ｳﾞｫｰｶﾙ、ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾃﾅｰｷﾞﾀｰ、ｳﾞｨｵﾗ}の若夫婦の全てを抱きしめたくなるような何とも愛おしい"ブリティッシュ･フォーク"なデュオ･アルバム。ジャケットにもブックレットにもディスクにも英国の自然豊かな地で家族三人で暮らす Christina の手描きの心温まるイラスト。素朴だが芯のしっかりした Christina のヴォーカルと夫妻の魅惑のヴォーカル･ハーモニーは 70 年代ブリティッシュ･フォークの芳香を醸し出していて、心温まる歌詞とともに親近感を増す。1000 枚限定盤のようで通し番号が手書きされている。2025 作。Folk Cellar)

*STEVE TISTON:Last Call　B

(1971 年のデビュー･アルバム"An Acoustic Confusion"から 54 年目の年に発表された御年 75 歳の Steve Tilston の新作。ギター青年だった時代を思い起こさせるようなブルースやフォークの香りを放つ鮮やかなギター･プレイと力強く朗々たるヴォーカルはルーツ回帰的であると同時に齢を重ねた熟達感があって、聴き応え充分。ラスト･アルバムを匂わすタイトルとは縁遠い充実作。2025 作。Talking Elephant)

*WIZZ JONES,PETE BERRYMAN & SIMEON JONES
:Come What May(2017 作。Riverboat)　A

*IAIN MATTHEWS & AD VANDERVEEN
:Greetings From Grolloo　C

(2003 年 3 月 1 日、Iain Matthews とオランダの SSW の Ad Vanderveen の共演ライヴ。Iain Matthews の音楽は SSW の原点に戻ったかのような、ギターの弾き語りによる素直な唄ばかり。Ric Sanders が二曲で飛び入り共演。2003 年/2024 作。Radz)

*JASON O'DRISCOLL:Dharma　Z

[CD/FAIRPORT&FRIENDS]

(R.McTell & D.Pegg)

*RALPH McTELL & DAVE PEGG:The Old Pals Act　E

(Ralph McTell のレコーディング等を通じて 50 年以上友人同士の Ralph McTell と Fairport の Dave Pegg のデュオによるライヴ･アルバム。R.McTell は「Fairport のメムバー以外で Fairpor に一番

親密な人物」と冗談。全15曲中Dylanの"One Too Many Mornings"とWoody Guthrieの"Pretty Boy Floyd"以外はR.McTellのナムバー。思い出話を交えながら進む本作は、いやはや心に沁みる唄のオンパレード。R.Mctellの声量は衰え知らずふくよかで、彼特有の抒情も全く不変。むしろ彼の歌心と唄の素の味わいとがじっくり味わえる感じだ。Dave Peggはベースのみならずウクレレやマンドリンやブズーキ等の細やかな伴奏とハーモニー・ヴォーカルでR.McTellの唄に寄り添う。観客の拍手もあたたかい。至福のライヴ。R.McTellファンは感涙なしには聴けない。中のステージの写真が楽しい。2025作。Matty Grooves)※この商品は封(シュリンクラップ)なし。

*RALPH McTELL AND WIZZ JONES:About Time　A
(2016作。Leola Music)

*FAIRPORT CONVENTION:A Live Recording - UK Tour October 2023　D
(2000枚限定盤。Chris Leslie{収録時68歳),Dave Pegg{77歳},Ric Sanders{71歳},Simon Nicol{72歳)から成る高齢者バンドFairportのアコースティック・ライヴ。Crosby Stills & Nashを彷彿させるさわやかハーモニーといい、軽快な唄といい、ダンサブルな軽快サウンドといい、その若々しく爽やかな音楽に気分爽快。全17曲。2024作。Matty Grooves)※この商品は封(シュリンクラップ)なし。

*ASHLEY HUTCHINGS:Million Dollar Ash　B
(Ashley Hutchingsの新作は80歳記念に発売されたコンピレーション・アルバム。全16曲。ゲートフォールド・ジャケット仕様でクレジットには"Special Compilation・・・"と曲目のみ。レコード会社から音源データを入手。その音源データを当店で整理したものをお付けします。2025作。Talking Elephant)

*ANNA RYDER:Pockets On Fire　A
(Anna Ryderは感性豊かで個性的な女性SSW。バックを務めるのはFairport Convention{Dave Pegg,Gerry Conway,Simon Nicol,Ric Sanders,Chris Leslie,Gerry Conway}の面々他。Produced by Dave Pegg, Nark Tucker and Anna Ryder。1999作。Woodworm)

*DAVID CARROLL AND FRIENDS:Bold Reynold　B
(David CarrollとFairport&Gryphonの選抜メムバーとによるDavid Carroll & Friendsの一枚目。David Carrollの心優しい人間性とFairportやGryphonの音楽への愛が詰まった心豊かなフォーク・ロック。2023作。Talking Elephant)

*SIMON NICOL & RIC SANDERS:Greetings From Grollo　B
(2003年3月1日オランダでのライヴ。Ric Sandersのフィドルの演奏が付いたSimon Nicolのギター弾き語りの曲を中心にRic SandersのフィドルとRic Sandersのギターのジャンルを超えたデュエット曲を加えた構成。2003年/2024作。Radz)

*SDP:Vol Two　B
(SDP{Sandy Denny Project}はTradarrのMarion Fleetwood,Gemma Shirley,PJ Wright,Mark Stevens+Sally Barker{再結成Fotheringay,Poozies}のスーパー・フォーク・ロック・バンド。本作は二枚目で、Sandy DennyソングをTradarr流に新たな英国フォーク・ロックで創作したもの。Fairport,Fotheringayファン必聴！2024作。SDP)

*TRADARR:Cautionary Tales　　B
(Sandy Denny Project の Marion Fleetwood,Gemma Shirley,PJ Wright,Mark Stevens に Gregg Cave,Guy Fletcher,Brendan O'Neill の七人組フォーク・ロック・バンド"Tradarr"の 2015 年のデビュー・アルバム。彼らが体現するのは"Liege & Lief"をベースにした今の時代のオリジナルな英国フォーク・ロック。ゲスト: Dave Pegg,Chris Leslie,Rick Sanders,Jerry Donahue。Hedge Of Sound)

[CD/ENGLAND]

(Magpie Arc)　　(Granny's Attic)

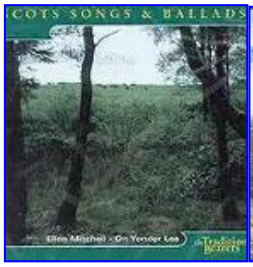
*MAGPIE ARC:Gil Brenton　　D
(トラッド畑の Nancy Kerr と Findlay Napier を中心に結成された Nancy Kerr{ヴォーカル、フィドル},Findlay Napier{ヴォーカル、アコギ、エレキギター},Alex Hunter{エレキギター},Tom A. Wright{ヴォーカル、ドラムス、各種ギター他}によるエレクトリック・トラッド・バンド"Magpie Arc"の二作目。何と Maddy Prior が二曲でヴォーカル参加。Nancy Kerr と Findlay Napier の孤高のシンギングを含め彼らの気合い十分なエレクトリック・トラッドに Maddy Prior も驚喜したことだろう。一曲目{タイトル曲。M.Prior に加え、Emily Portman,Rosie Hood,Gillian Frame,Fi Fraser 等もヴォーカル参加！}はある男が異国の女性を妻として連れ帰ったところ、新妻はすでに妊娠。そこから妙なドラマが展開するバラッド。そのドラマの不思議さと興味深さと勢いをキープしたまま最後のバラッド曲"The Mantle"まで突き進む。英国エレクトリック・トラッド＆フォーク・ロックの王道まっしぐら。ゲスト:Ian Anderson。2025 作。Collective-perspective)※この商品は封(シュリンクラップ)なし。

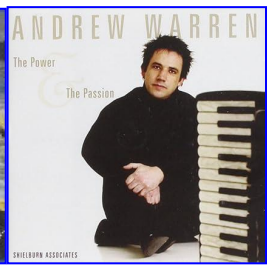
*GRANNY'S ATTIC:Cold Blows The Wind　　D
(2017 年のソロ・アルバム"Outway Songster"でデビューして以来、イングランドの最も注目すべきトラッド・シンガーとして誉れ高き Cohen Braithwaite-Kilcoyne{ヴォーカル、メローディオン、コンサーティーナ}と、これまた無名ながら注目すべきトラッド・シンガーの George Sansome{ヴォーカル、ギター}とフィドル奏者の Lewis Wood のトリオ"Granny's Attic"の新作。Cohen の躍動的で円やかで毅然としたシンギングも George の柔らかなシンギングも極上な上に、ジャバラとフィドルを要に組み立てられた一体感ある音楽といい、彼らのトラッドは嬉しいくらいにイングランドのコアなトラッドでしかも若々しい。イングランドのトラッド・ファン笑顔保証の素晴らしさ。Mojo 誌は Cohen のことを「トニー・ローズやピーター・ベラミーを彷彿させる伝統的な歌への情熱」と賛辞。2025 作。Grimdon)

※Cohen と George のそれぞれのアルバムも素晴らしく、次回販売予定。

*JON BODEN　& THE REMNANT KINGS:Parlour Ballads　　C
（Jon Boden の新作はビクトリア朝時代に全盛期を迎えたパーラー･ソング｛バラッド｝をタイトルしたアルバム。フォーク･ソングとしてピアノを奏で、やや感傷的に朗々とうたう。感動はジャンルを超える。Produced by Andy Bell。11 曲。2024 作。Hudson）
*JON BODEN:Songs From The Floodplain　　A
（デラックス･エディション限定盤。2009 作。Navigator）
*CHRIS MANNERS
　:Bar Doors And Bang The Shutters Down　　C
（英国の SSW でギター奏者の Chris Manner の四枚目。1970 年代以降数多くのギター弾き語りのフォーク･シンガーが産声を上げ、20 世紀後半の英国フォーク･シーンを盛り上げてきたが、彼のシンギングとギターはその時代の英国フォークの味わいと魅力を律儀に保持していて、時代錯誤感に襲われる。独自のフォークを英国フォーク的に気高く美しく花開かせている。15 曲。ゲスト:Jon Loomes。2024 作。99YRCD04）
*STEVE TURNER:Curious Times　　C
（これぞイングランドのトラッドの真骨頂！と豪語したくなるヴェテラン･トラッド･シンガーでコンサーティーナ奏者 Steve Turner の新作。通算９枚目。自身が奏でるコンサーティーナをお伴にゆるくコブシの利いた何とも味わい深いシンギングは、齢を重ねた心あるシンガーのみが体得できる味わいだろう。
w.Martin Carty,Moira Craig,Rob van Sante,Liz Turner,
Allan Rose,Rikki Gerardy。全 13 曲。2023 作。Tradition Bearers）
*THE ROSIE HOOD BAND:A Seed Of Gold　　C
（偽りの愛の物語"The Swallow"で幕開けする Rosie Hood Band～Rosie Hood｛ﾎﾞｰｶﾙ、ｷﾞﾀｰ、ｳｸﾚﾚ、ﾌｨﾄﾞﾙ｝、Nicola Beazley｛ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾎﾞｰｶﾙ｝、Rosie Butler-Hall｛ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾎﾞｰｶﾙ｝、Robyn Wallace｛ﾒﾛﾃﾞｨｵﾝ、ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ、ﾎﾞｰｶﾙ｝～の新作はイングランドの美しき女性トラッド･シンガー･アルバムの魅力に充ち満ちていて、心奪われる。2023 作。Little Red）

[CD/SCOTLAND]





（Ellen Mitchell）　（Fiona & Raymond）　（Andrew Warren）

*ELLEN MITCHELL:On Yonder Lea　　A
（発掘ＣＤ。"Scots Songs & Ballads"シリーズで発売されたグラスゴー出身のトラッド･シンガー、Ellen Mitchell の 2002 年作。Liggie Higgins の唄が好きという彼女が伝統歌に親しむようになったのはフォーク･クラブやフォーク･フェスだったという。トラッド･シンガーから学んだという彼女のシンギングは穏やかで温かみがあるシンギング。聴くほどに味わい深い。w.Jack Beck｛ギター、ヴォーカル｝、Tom Spiers｛ヴィオラ、フィドル｝。全 14 曲。曲目解説付。Traditional Bearers）

*FIONA MACKENIE & RAYMOND BREMNER:Astair　　Z
（発掘ＣＤ。スコットランドのゲール語シンガーの中のシンガーのFiona MackenzieとRaymond Bremnerによる無伴奏ゲーリック{ガーリック}・ソング・アルバム。二人のデュエットはなく、ソロ・シンギングが交互に収録されている。Fionaのシンギングの美しさは極上。"Simple is best"なたっぷりゲーリック・ソングの世界。データは曲目とシンガーの紹介文のみ。CD-R。検品済み。2000作。Fiona Mackenzie）
*ANDREW WARREN:The Power and the Passion　　Y
（発掘ＣＤ。ピアノアコーディオン、ハイランドバグパイプ、スコティッシュ・スモールパイプをフィーチャーした琴線に触れるスコティッシュ・ミュージック。「曲のほとんどはAndrew Warrenよって作曲・編曲されています。このCDの副題は"Contemporary Accordion & Pipe Music"ですが、彼は自身の音楽的ルーツを見失うことなく、スコットランド音楽の本質に新鮮さと軽快さをもたらしています。ミュージシャンたちは息がぴったりでアレンジも素晴らしいので、注意深く聴く人は聴くたびに新しい刺激的な何かに出会うでしょう。非常に賞賛に値する作品です」{Living Tradition}。2004作。Shielburn Associates）
*ELSPETH COWIE:Naked Voice　　Z
（発掘ＣＤ。スコティッシュ・トラッド・バンド"Seannachie"のシンガーで数々のスコティッシュ・トラッドのコンピレーション・アルバムに音源を提供している女性スコティッシュ・トラッド・シンガー、Elspeth Cowie{スコットランド伝統音楽の殿堂入り}の2000年の一作目。Liggie HigginsやJeannie Robertson等のレパートリーを含むスコットランドの伝承歌を魂を込め、無伴奏で、時に気高く、時にリズミカルに、時に優しくシンギングする。そんな中、ジャズのスタンダード・ナンバーが伴奏付きで二曲。この二曲はほろ酔い気分。ラストはDick Gaughanの名唱でお馴染みの"MacCrimmon{Lament}を孤高のシンギングで幕。2000作。Rockville）
*THE MILLENNIUM CONCERT
"Orkney Folk Festival 2000"　　Y
（発掘ＣＤ。オークニー島で開かれたHazel & Jennifer Wrigley姉妹{8曲}とギター＆ブズーキ奏者のGavin Firth率いるトラッド・グループ"Tullimental"{全15曲}と百戦錬磨のフォークロック系フィドル奏者"Andy Cant with his band"{8曲}のフォークフェス・ライヴ。2000作。Mariner Music）
*CHRISTINE KYDD:Dark Pearls　　A
（発掘ＣＤ。スコットランド発女性トラッド・アルバムの名盤。自身が爪弾くギターと終始ハーモニー・ヴォーカルで寄り添うLorraine Jordanが奏でるブズーキの伴奏で毅然とまた軽やかにシンギングするChristineのシンギングの何と魅力的で素晴らしいこと！Lorraneとの無伴奏デュエットを間に挟みながらの曲編成だが、この組合わせが実に見事で双方のスタイルによるスコットランドのトラッド{バラッドと伝統歌}のピュアな味わいと魅力が味わえるアルバムになっている。選曲はJeannie RobertsonやLiggie HigginsやSheila Stewart等のほか主に先輩トラッド・シンガーから学んだバラッドと伝統歌。聴き逃していたトラッド・ファン必聴。「スコットランド・フォーク・ミュージックの永遠の宝」{Living Tradition}。1999作。Culburnie）

*ATOMAIG PISEAG:Direach Purr-fect　　C
(Atomaig Piseag は女性合唱団として 10 本の指では数え切れないほどの受賞歴を誇る実力派の女性ゲール語合唱団。彼女たちはスコットランド･ゲール語の伝統歌の素朴な美しさと味わいを保ちつつ、伝統歌を現代的に解釈し、様々な合唱スタイルを考案し、革新的な合唱を創り出している。カラフルで美しくかつ楽しく、爽やかで力強くもある。全 12 曲。2024 作。Sradag Music)

*UP IN THE AIR:Moonshine　　Z
(Up In The Air は、Old Blind Dogs の創設メムバーの二人の Jonny Hardie{ﾌｨﾄﾞﾙ、ｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ} と Davy Cattanach{ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ、ｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ} に Iron Horse の Gavin Marwick{ﾌｨﾄﾞﾙ} のスーパ･トリオによる 2012 年のアルバム。スコティッシュ臭の強い Dave のシンギングが素晴らしく、全体として Old Blind Dogs の核の音楽的な印象で、琴線に触れる音楽を自在に創作している。
Up In The Air)

*COAST:The Turning Stone　　Z
(Runrig クラスのフォークロック･バンド。Paul Eastham のヴォーカルも抜群。ゲスト:Duncan Chisholm。2011 作。Ruabhal)

[CD/WALES]

*RAG FOUNDATION:Minka　　Y
(発掘ＣＤ。南ウェールズのスウォンジーの一姫二太郎の三人組、Rag Foundation～Neil Woollard{ヴォーカル}、Kate Ronconi-Woollard{フィドル、ヴォーカル}、Richard Cowell{ギター}～の 1999 年の一作目。曲目は英語とウェールズ語の伝統歌だが、Neil のヴォーカルは吟遊詩人風で独特な味わいで心に響き、Richard のブリティッシュ･スタイルの端正で美麗なギターと Kate の素朴で詩情感あるフィドルは独自の不思議感のあるブリティッシュ･フォーク風フォークを創作。ヴォーカル･ウィズ･ギター＆フィドルの一体感あるサウンドも新鮮。Kate が唯一ヴォーカルを取る"Green Bushes"曲は 70 年代不思議ブリティッシュ･フォークの色彩が濃い。ゲスト:Andy Cutting,Nigel Eaton,Julie Murphy,Ceri Rhys Matthews。Fflach)

[CD/IRELAND 系]

デジパック･タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。

(Weaving)

*THE WEAVING:Dlúth agus Inneach　　E
(3/17 入荷予定。Séamus Begley の娘でアイリッシュ･グループ"Cuas"の Méabh Ní Bheaglaoich とアイリッシュ･トラッド･シンガーでピアノ奏者の Cáit Ní Riain とフィドルとギターのデュオ"Owen Spafford & Louis Campbell"の片割れで英国人フィド

ル奏者のOwen Spaffordの二姫一太郎のトリオ。アイルランド・トップクラスの二人の女性トラッド・シンガーによるゲール語を含む唄は極上の味わいな上に、Méabhのアコと幅広い音楽性を身につけたOwenのトラッド寄りに焦点をしぼったフィドルとの共演と熱演は＋αの魅力あるアイリッシュを生み出していて圧巻。さらにCáitがダンサブルなピアノの伴奏で後押しする。「私たちにとって音楽と　は人々と自然界を称えることであり、伝統音楽には家族、友人、コミュニティそして故郷と呼ぶ土地への愛が織り込まれています」{The Weavingのサイトより}。Méabhの新たな挑戦にあっぱれ！2026作。The Weaving)

*CUAS:Cuas　C

(Méabh Ní Bheaglaoich{ヴォーカル、アコ},Nicole Ní Dhubhshláine{コンサーティーナ、フルート},Kyle Macaulay{ギター、ブズーキ},Niamh Varian-Barry{ヴォーカル、フィドル他}から成るアイリッシュ・グループ。Méabh & Niamhの清楚なシンギングに加え、アイリッシュの躍動感に充ち満ちていて、大盛り上がり。2024作。Cuas)

*O'STRAVAGANZA:O'stravaganza　Z

(発掘ＣＤ。Nollaig Casey,Emer Mayok,Ronan Le Bars,Robert Harris,Brenda Mayock等のアイリッシュ・ミュージシャンとMyrdhin,Isobelle Oliverのフランスのケルティック・ハープ奏者がバロック楽団と共演したバロック風アイリッシュ。これが結構面白い。リバーダンスの音楽のような醍醐味。Produced by Hughes De Courson & Youenn Le Berre。2001作。EMI)

*ALAN BURKE:On The Other Hand　Z

(発掘ＣＤ。リリース時ダブリンを拠点に活動していたフォーク＆トラッド・シンガーでギター奏者のAlan Burkeの1997年作。アイルランドのトラッド曲を中心にRichard ThompsoaやTim Woodsそれに自作曲を含む本作はAlanの伸びやかなヴォーカルとAlanの英国トラッド調のギターが魅力的で、かつ英国トラッドとアイリッシュ・トラッドが自然にブレンドされた音楽が魅力的。アイリッシュ・ファンのみならず、ブリティッシュ・フォーク・ファンにもお薦め。w.Dezi Donnelly{フィドル},Francis McIlduff{イリアンパイプス、ローホイッスル},John Harris{エレキギター}。Gurug)

*AN CHEAD CHIUIN EILE:Cá'il an Bheirt?　E

(カウンティ・ミースのゲール語地域出身のEtain & Maire姉妹のデビュー・アルバム。姉妹の大叔父は偉大なシャン・ノース・シンガーのDarach Ó Cathái。Darachは姉妹にとって大きな誇りで、大叔父のシンギングは大きなインスピレーションの一つと言う。本作はガチガチのトラッド・アルバムではない。本作でLumiereのヴァージョンを採り上げているが、いわばLumiere風の女性デュエットが美しい優美なアイリッシュ・シンギング・アルバム。失恋や離別など悲哀の伝統歌を多く含むのに加えて、Nathan Grant{ｷﾞﾀｰ},Cathal Ó Curráin{ﾌﾞｽﾞｰｷ},Jack Warnock{ｷﾞﾀｰ}による二人に寄り添う伴奏が二人の美しいソロ＆ハーモニーの優美さを高めている。2023作。An Chead Ghluin Eile)

*EIMEAR COUGHLAN & FRANCIS CUNNINGHAM
:The Caves Of Kiltanon　E

(クレア出身のハープ奏者のEimear Coughlanと同じくクレア

出身のコンサーティーナ奏者のFrancis Cunninghamの若き伝統音楽家による夫妻名義のデビュー･アルバム。Eimearの祖父はTulla Ceili Bandの創設メンバーでアイルランドを代表する名フィドル奏者のPaddy Canny。アイリッシュ･ハープとコンサーティーナのソロ＆デュエットの音楽として、かつクレア発アイリッシュ･ミュージックとして感動的。夫妻ともにそれぞれの楽器部門のオール･アイルランド･チャンピオンだが、演奏は気分がホッコリするほどクレア･スタイルで暖かい。2025作。CCO001)

*MICK MULVEY & SHANE MEEHAN:The Missing Guest　E

(フルートとフィドルの演奏において、北コナハトの名手達の演奏を彷彿させるフルートとフィドルによる最高レベルのアイリッシュ･ミュージック。ゲスト:John Blake,Joe Kennedy.Matt Mulvey。10年以上の共演経験を経て創作された至福の全15トラック{42曲}。2025作。(Coolathma CD3)

*MICHELLE MULCAHY:Lady On The Island　E

(再入荷。2022作。Michelle Mulcahy)

*DAIRE BRACKEN & LORCAN MacMATHUNA:Preab Meadar　B

(ゲール語シンガーのLorcan MacMathunaとSlideの創設メムバーで元DanuのフィドラーのDaire Brackenのデュオ･アルバム。本作は600年から1600年のゲール語の詩を源泉とした自作曲とその時代の詩に曲を付けたもので、Lorcanシンギングやリルティングは過去に生きた人びとの魂の歌声にも聞こえる。また相方Daireの演奏は唄の伴奏を超えた即興的演奏で、響き合っていて、感動的。2014作。DBLM01)

*ELIXIR:Elixir　C

(録音は1983年10月と1984年３月。本作はブルターニュのシンガーでティンホイッスル、フルート奏者のPol Huellouの呼びかけで集まったミュージシャンによるセッション･アルバム。集ったのはLiam Weldon{ｳﾞｫｰｶﾙ},Sean Howley{ﾌﾞｽﾞｰｷ},Brian O'Donoghue{ｷﾞﾀｰ},David Hopi Hopkins{ﾊﾞｳﾛﾝ}の四名。呼びかけ人のPol HuellouのティンホイッスルのTeadaの演奏が素晴らしく、ブズーキ、ギター、バウロンの演奏も誘発されるように見事な演奏を繰り広げる。Liam Weldonの貴重シンギング二曲収録。1984年/2021作。Goasco Records)

*TEADA:Coisceim Coilligh　B

(ゲストにSéamus Begley{4曲参加]を迎えて制作されたTeadaの結成21周年を祝う2022年作。フィドル、ボタン･アコーディオン、フルート、ギター、ブズーキ、バウロン、キーボードによるアイリッシュは音楽が多彩でスローテンポからミディアムテンポそしてアップテンポまで縦横無尽。その職人芸は驚くばかり。さらに生前最後の録音記録と思われるSéamus Begleyの柔和なゲーリック･シンギングが涙を誘う。最高のアイリッシュ！Gael Linn)

*THE LARK ON THE STRAND:The Lark On The Strand　C

(本作は2000年一月にSesoaimhín Ní Bheaglaíoch{Macalla/ｳﾞｫｰｶﾙ},Charlie Piggott{De Danann/ｱｺ},Peter Browne{1691, Bothy Band [Paddy Keenanの代役] /ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ},Gerry Harrington{ﾌｨﾄﾞﾙ}が"The Lark On The Strand"の名でアイルランド･ツアーをしたときのライヴ･アルバム。アイリッシュ･ミュージック界のプロフェッショナル三人によるアイリッシュは、

様々なタイプのダンス曲をあの手この手の名演奏で舌鼓を打たせる。加えてSesoaimhínの滋味豊かなゲール語のシンギング付。全34曲！2000年/2022作。LOTS001CD)

*LILLEBJORG NILSEN ・ ANDY IRVINE:Live In Telemark　C
(本作は1994年にノルウェーのフォーク･フェスでのAndy Irvineとノルウェーの SSWのLillebjorn Nilsenの共演ライヴ。2020年作。Heilo)

*PADDY KEENAN･TOMMY O'SULLIVAN
:The Long Grazing Acre　Z
(Bothy Bandの創設メムバーでにイリアンパイプ奏者のPaddy Keenanとギリスト兼シンガーのTommy OSullivanのコラボ･アルバム。2001作。Hot Conya)

*TOMMIE CUNNIFFE:Unbuttoned　Z
(ロスカモン出身のアコ奏者の2007年作。クレアとゴールウェイ曲が多いが、飛び跳ねるリズムの一音一音が絶え間のないメロディーとなって気持ちよく滑空する。職人芸。Tommiecunniffe)

*3 TRIUR:Omos　Y
(Peadar O Riada{ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ},Caoimhin O Raghallaigh{ﾊﾙﾃﾞｲﾝｸﾞﾌｪｰﾚ},Martin Hayes{ﾌｨﾄﾞﾙ}のスーパー･トリオ"3 Triur"の三枚目。全14トラック。2013作。Peadar O Riada)

[CD/LAPLAND]

*ASSU:Luoteniegut　C
(サーミ人でヨイク･シンガーのUlla Pirttijärviがヴォーカルのáššuの６年振りの新作。本作収録の曲は動物、自然、冷たい風、友人や親戚の思い出などUllaにとって夢のような曲だという。呪術的な響きのヨイクに様々な物語がうたい込まれているのだが、ヴォーカルに磨きがかかっているうえにKenneth Ekornesのパーカッションと Olav Torgetの各種ギターとンゴニによる土俗的な伴奏を伴って、インパクトの強いヨイクを創作している。2025作。Nordic Notes)

*ULLA PIRTTIJARVI:Ruossa Eanan　C
(サーミ人シンガーのUlla Pirttijärviの1997年リリースのデビュー作。収録時26歳。デビュー時より見事なヨイク節。Atrium))

[CD/FINLAND]

*NOUSE LUONTO "Lauluja Monimuotoisuudesta"　C
(本作のテーマは「北欧の生物多様性の歌」。その旗印のものに集ったフィンランドのフォーク･シンガー/ミュージシャンは、Frigg,Antti Paalanen,Kasvu,Maria Kalaniemi,Piia Kleemora,Disiree Saarela,Akkajee Ánnámarét & Maja Kauhanen,Anette Akerlund,Akkajee,Kimmo Pohjonen,Maria Kalaniemi & Maja Kauhanen,Yhteiskapple{以上演奏者順)。フィンランドのトラッドの感動のアルバム。2024作。Nordic Notes)

*EMMI KUITTINEN:Surun Synty　C
(フィンランドのカレリア地方とイングリア地方の歌唱スタイルを専門とするトラッド･シンガーのEmmi Kuittinenの2023年作。フィンランド音楽賞の"Emma Gaala"で年間最優秀フォーク･アルバムにノミネートされたという本作。本作「悲しみの誕生」はフィンランドの民族楽器の素朴な響きとEmmiの悲哀感のある

シンギングは、本作のタイトルそのままの印象で、古き時代の
フィンランドの家庭にタイムスリップしたかのよう。
Nordic Notes)

*SALAMAKENNEL:IV C

(1989 年、1990 年、1992 年に枚のアルバムをリリースした後にバンド活動を停止していた Salamakennel～Arto Järvelä{ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ、ﾆｯｹﾙﾊﾙﾊﾟ}、Hannu Saha{ｶﾝﾃﾚ}, Kimmo Känsälä{ﾍﾞｰｽ}、新加入の Antti Kettunen{ｱｺｷﾞ、ｴﾚｷ、ﾂｨﾀｰ、ﾍﾞｰｽ}の 30 数年振りの新作。メインは Arto Järvelä。Arto はフィンランドの伝統的フィドル音楽を愛しむように演奏し、共演メムバーが響演するスタイルで、カンテレの大家 Hannu Saha のカンテレと Antti Kettunen のツィターが爽やかさを添えている。ゲスト:JPP, Jonna Tervomaa {ｳﾞｫｰｶﾙ}。2024 作。Bafe's Factory)

[CD/SWEDEN]

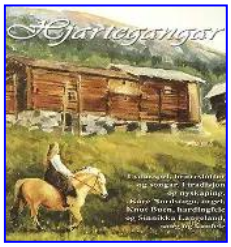
*LJUS OCH LYKTA:Ljus Och lykta A

(女性三名と男性一名の四人組トラッド･バンド"Ljus Och lykta"の爽快デビュー･アルバム。曲目のほとんどはスウェーデン舞台芸術庁のアーカイブのコレクションで見つけ出したトラッド曲で、彼らは若々しく自由闊達なソロ･シンギング＆ポリフォニックなハーモニーでスウェーデンの伝統歌を再現する。、特にフィドルのスウェーデンのトラッドの香り立つ演奏がトラッド色を高めている。フレッシュな北欧トラッド。2022 作。Caprice)

*HOVEN DROVEN:Trad Z

(Trad と題された Hoven Droven の 2021 年作。1989 年結成以来、30 年以上にわたってスウェーデン･スタイルのフォーク･ロックを果敢に創作してきた彼らが初心の帰りつつ、腕を上げた演奏力と表現力で取り組んだ 30 周年記念アルバム的性格の快作。Heilo)

[CD/NORWAY]



(Hjartegangar)

*HJARTEGANGAR "Lydarspel, Brureslattar Og Songar, I Tradisjon Og Nyskaping" Y

(発掘ＣＤ。大聖堂オルガン奏者の Kåre Nordstoga とハルダンゲル･フィドル奏者の Knut Buen の共演にトラッド･シンガーでカンテレ奏者の Sinnikka Langeland が４曲で加わったアルバム。神聖な空気に充ちた北欧トラッド。2006 作。NYCD11)

*TRITULEN:Tritulen B

(Tritulen は Ebba Jacobsson がヴォーカルの女性 2 名と男性 1 名のトラッド･グループ。ノルウェー西海岸の伝統曲を中心にした選曲で、Ebba のシンギングもフィドル、ギター、アコの演奏も極北トラッドの薫りを発するが、ストイックな極北性ではなく、穏やかで牧歌的な極北性。Ebba のシンギングは新緑の森の中を口ず

さみ散歩するような爽快気分のシンギング。2012 作。
Etnisk Musikklubb)

*JUNI HABEL:Carvings C

(ブリティッシュ･フォーク･タイプのノルウェーの女性 SSW、June Habel の 2023 年作。ほとんどの曲を祖母の家で録音をしたという本作は、さざなみのようなギターが特徴的なギターの弾き語りで、心を鎮め密やかにうたう彼女の唄の世界にじわじわっと引き込まれる。極上の 70 年代ブリティッシュ･フォーク風アルバム。唄は英語。Basin Rock)

*SIGRID MOLDESTAD:Sandkorn Z

(ノルウェーを代表する女性フォーク･シンガーの Sigrid の本作はスコットランドの Robert Burns 作の名曲 3 曲と伝統歌 2 曲と残りは Sigrid の自作曲という曲目で、自身が奏でるハルディングフェーレ等がノルウェーのトラッドの薫りを撒き散らす中、Sigrid の軽やかな節回しの唄は北欧風味を薫らせ、詩情豊かで美しい。2010 作。Heilo)

[CD/DENMARK{Irish}]

(BoneSone)

*BONEZONE:In Session Z

(発掘ＣＤ。2002 年、米国で開かれたコンテストのボーンズ部門世界チャンピオンの Yirdy Machar{ヴォーカル、ボーンズ、スプーン}の元に集まってアイリッシュ･セッションしたアイリッシュ仲間による 2007 年作。当時デンマークのシーランドという島の森の中で暮らしていたという Yirdy はボーンズの超絶演奏を買われ、Phil Cunningham & Aly Bain や Dubliners や Dervish 等のコンサートにゲスト出演。ボーンズをフィーチャーした森の中？でのアイリッシュはセッションの楽しさ充満。アイリッシュ･ファンのみならずみんな笑顔。Go')

[CD/FRANCE]

(Picotage)

*PICOTAGE:Noel Nouveau Est Venu B

(発掘ＣＤ。「フランス中部のレパートリーを専門とするこのグループの 2 作目。この CD にはオーヴェーニュやベリーなどの地方の伝統から生まれたクリスマスをテーマにした歌曲やアリアが収録されています。クリスマスの歌の解釈は Gloria Moretti の力強い歌声に託され、ハーディガーディ、バグパイプ、ダブルリード、

キーボードの伴奏が響き渡ります」{Radiomusc}。Gloria Moretti
のシンギングが素晴らしい上に、フレンチ・トラッド・サウンドも
極上。2000 作。FolkClub Ethnosuoni)

*GAYANE:He Brings You Flowers　　Y

(ブルターニュの歌姫 Gayane の 2006 年作。13 曲中 10 曲は英語で{ﾗｽﾄ
の仏語の歌は英語による１曲目の仏語ﾞﾞｧｰｼﾞｮﾝ}、英国の夢心地
な不思議女性 SSW 的。夢のような世界をきらめきのあるアコース
ティック・サウンド～フォーク・ロックで、Gayane らしい美意識
の中で表現しきっている。2006 作。Keltia Musique)

[CD/ASTURIES]

(DRD)

*DRD:Namai　　B

(発掘ＣＤ。スペイン・アストゥーリアスの三人組"DRD"{楽
器編成は木製フルート各種フィドル、ギター、ブズーキ。そ
れにヴォーカル}の 2005 年作。かれらはアストゥーリアス
の伝統音楽をケルティックな音楽センスと演奏で当時最
前線のケルティック・トラッドを体現。Doifu R.Fernandez
のシンギングを含め、彼らのアストゥーリアス風ケルティ
ック・トラッドの何と素晴らしいこと！Fonn Astur)

[CD/ITALY]

(Belli Tamburi)　　(Marchello)

*BELLI TAMBURI:Dana E Ridanza　　A

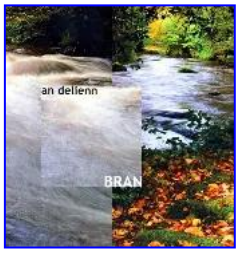
(発掘ＣＤ。「Antonio Brun はパーカッショニスト兼ドラマ
ーの弟 Giorgio Bruno とサックスの Tonino Panico、オルガ
ン、メロトロン、シンセの Peppe Rinald とピアノの Siro
Scena といったカンパニア州出身のミュージシャンからな
るグループ"Belli Tamburi"と共に魅力的で刺激的なアル
バムを発表。そのサウンドは地中海の風味、特にナポリの
伝統を体現し、「ナポリの力」を包含しながら、カラブリア
からサレントに至る南部の幅広い民族音楽の影響も取り
入れています。これらすべてにジャズの雰囲気が一貫し
て漂い、魅惑的な魅力、神秘性、そして優雅さをサウンドに
吹き込んでいます。卓越した才能を持つミュージシャンた
ちによる演奏は、最高品質のアルバムです」{Radiocoop}。

2007 作。Look Studio)
*MARCHELLO:Filuzi - Balli Bolognesi　　Y
(発掘ＣＤ。アコーディオン奏者の Marco Marchello の演奏とグループ演奏による祖父母の時代の古き良きアコーディオン音楽{イタリアン･ミュゼット}の世界。ワルツ、マズルカ、ポルカ、タンゴ♫　2012 作。Tasa Dancer)

[CD/ARMENIA]

(Bradyaga)
*BRADYAGA:Promesses　　Z
(発掘ＣＤ。このプロジェクトはアルメニア出身の作曲家兼ピアニスト、Naïra Mnoian の構想から生まれました。彼女は 1971 年、旧ソ連のエレバンに生まれ、過去 8 年間ベルギーに在住しています。フランス語、ロシア語、アルメニア語で書かれた歌詞は、故郷を追われ、失恋、母性そして旅によって変化していく女性の物語を描いています。東洋とオリエントの音楽は、放浪的で遊牧民的で官能的で、そして時にメランコリックな雰囲気を漂わせています」{レコード会社のサイトより}。2005 作。.Home)

[CD/CZECH{Celtic}]



(Bran)
*BRAN:An Delienn　　Z
(発掘ＣＤ。チェコの 6 人編成のブルターニュ系トラッド･グループの 2008 年作。唄はブルターニュ語、フランス語と英語。各ミュージシャンの演奏は多彩で、耳に新鮮なブルターニュ風ケルティック･ミュージックを創作。曲によってはペンタングル風だったり、ブリティッシュ･フォーク風だったり。どこか夢見気分。「ダンスと海の歌を軸とする Bran はメムバー自身の作曲とブルターニュの伝統音楽を組み合わせた豊かで多彩なレパートリーを提供」{Indies Scope のサイトより}。Indies Scope)

[CD/HUNGARY]
*KOLINDA:Incantation　　D
(Kolinda の 1997 年作。Pan)
*KOLINDA:Forgotten Gods　　D

(Kolinda の 2000 年作。女性シンガーの Kriszta Kováts を迎え、汎東欧～西アジア的悠久感のある Kolinda 流異種交配エキゾティック・ミュージックを創作。Pan)

《堀田はりいの新刊》

◎堀田はりい著『新・卑弥呼物語－卑弥呼と壹與の女王国』◎
～伊都国王統の卑弥呼女王の生涯と
伊都国から大和国への遷都の物語～
（本体１３５０円【税込み１４８５円】（送料無料）
◎ご注文に本書が含まれている場合は送料無料です。
【読者から】
○卑弥呼とそのまわりの人々、庶民の様子が生き生きと描写されていて感動いたしました。
○卑弥呼の祭祀の場面やその他の場面で音が聞こえるようでした。
○色んな場面で情景が浮かぶようでした。
○卑弥呼にまつわる独自の学説や説得力のある時代考証等々、「そうかそうか」とうなづきながら一気に読了しました。
○卑弥呼、壹與、神武天皇、魏の使者、張政の関係を興味深く読みました。
○読み終わって幸せな気分になりました。
○中学の先生からは「読みやすかった。生徒にも薦めたい。自作は長編物を期待しています」

社長の別荘がタムボリンの隣という縁で、湯布院の観光名所「湯布院フローラルヴィレッジ」でも販売してくれています。
販売協力店募集中！

（あとがき）
*前回、音楽の本ではないにもかかわらず、たくさんの方から拙書『新・卑弥呼物語』のご注文を頂きました。読後感想もた

くさん頂いています。本当に「タムボリンのお客様、様々」という思いです。これからも SMS 等での情報発信のご協力をお願いします。
*先月地元の新聞に僕の写真付きで本の紹介記事が掲載されました。そのときは数日間注文が続きました。行きつけのパン屋で「ほったさんですか？」と。「えーそうですが」と応えると「アマゾンで本を購入しました」と。新聞の力をつくづく感じた次第です。
*暇つぶしに旧在庫品を聴き直していたら、「発掘ＣＤ」が増えてしまいました。今改めて聴いて、その音楽の良さが分かることが多く、楽しみながらコメントを書きました。今の時代、ネット情報も参考になりますね。
*ではご注文をお待ちしています。(船津{Harry Hotta})

あなたはだーれ？！

ご注文は　song@tambourine-japan.com　又は tambour@ya2.so-net.ne.jp(CC 用) へ。